

公益財団法人日本少年野球連盟主催大会規定

2015年 2月22日改正	2021年12月12日改正
2016年12月11日改正	2023年12月10日改正
2017年 4月28日改正	2024年12月 8日改正
2021年10月 2日改正	2026年 2月22日改正

1. チームの登録選手 中学生の部は11名以上25名以内（ベンチ入りは20名以内）、小学生の部は9名以上20名以内とする。
2. 出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手20名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、スコアラーのみベンチに入ることが出来る。但し、チーム責任者、監督、コーチ、選手は登録証を携帯すること。携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
5. 組み合わせの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。
6. 監督（背番号60）、コーチ（背番号50）は選手と同じユニフォームを着用すること。
7. 試合開始時刻60分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表5部、打球回数記録表3部および大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
10. 試合方式など

・中学生の部

- (1) 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間（決勝戦は2時間）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
- (2) 4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回表終了時）10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
- (3) 7回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。試合開始から2時間を超えては新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）

・小学生の部

- (1) 各試合は6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分（決勝戦は1時間40分）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行

が不可能となった場合、野球規則 7.01(4) により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。

試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。

(2) 4 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。

(3) 6 回終了後、同点の場合はタイブレイク方式を実施する。試合開始から 1 時間 40 分を超えては新しいイニングに入らずタイブレイク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレイク実施細則」参照)

11. ・中学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は、以下のとおり制限する。

(1) 1 日最大 80 球とし、連続する 2 日間で 120 球以内とする。

連続する 2 日間で 80 球を超えた場合は、3 日目は投球を禁止する。

また 3 連投 (連続する 3 日間) する場合は 1 日の投球数を 40 球以内とし 4 連投 (連続する 4 日間) は禁止する。

(2) 大会中は 1 日 80 球以内とし、翌日投球を休めば 3 日目は 80 球の投球を可とする。

(3) (1) ~ (2) を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。

(4) 連続する 2 日間で 80 球を超えた投手、並びに 3 連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。

(5) ボークは投球数としない。

(6) 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。

(7) 2 年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

・小学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は以下のとおり制限する。

(1) 1 日最大 70 球とし、連続する 2 日間で 105 球とする。

3 連投 (連続する 3 日間) は禁止する。

(2) 大会中は 1 日 70 球以内とし、翌日投球を休めば 3 日目 70 球の投球を可とする。

(3) (1) ~ (2) を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

(4) ボークは投球数にしない。

(5) 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

・共通事項

(1) ダブルヘッダーの場合で、2 試合に登板した時は連続 2 日間投球した事とする。また、1 試合のみ登板した場合は、1 日の投球とする。

(2) 小学生に於いては投手から捕手の制限は設けないが、指導者は十分考慮すること。

(3) 日程の変更 (地区大会を含む) 等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」を次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛てに提出しなければならない。

12. 監督、コーチの指示に関する制限について

(1) 監督またはコーチが投手のもとへ行くことに関して、規則 5.10 (ℓ) を適用する。

(2) 監督またはコーチの指示は 1 試合で攻撃 2 回と守備 2 回の計 4 回とする。タイブレイクに入った場合は、それ以前の回数に関係なく、守備・攻撃それぞれ 1 回の指示を認める。(選手の怪我は回数に入らない)

スピードアップの観点から投手のもとへ行くことだけでなく、監督またはコーチが選手を呼んで指示する行為も回数に数える。

(3) 投手および野手を交代する場合は、ファウルラインを越える前に球審に交代を通告しなければならない。ファウルラインを越えてから交代を通告した場合は指示の回数に数える。

- (4) 選手の怪我、事故などで監督・コーチがファウルラインを越えても回数には入らない。
- (5) 投手に対する指示が3回目になれば、その投手は自動的に交代しなければならない。
- (6) 投手が投球練習を始めても監督・コーチがマウンド付近に留まった場合には、1回に数える。
- (7) 野手(捕手を含む)が2人以上投手のところに行った時も指示1回に数える。
- (8) 1イニングで同一の投手に対して指示が2回目となればその投手は自動的に試合から退かなければならない。

攻撃側の責めに帰せないタイム中(例えば、守備側が投手のタイムを要求したタイム中、選手が負傷したとき、選手の交代のときなど)の指示は認めるが、さらに試合が遅延した場合は、回数に数える。

13. 同一イニングでの投手の守備位置の交代について

野球規則 5.10(d)【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置にいたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。

[規則適用上の解釈]

投手は同一イニングで二度目の投手に戻れば、それ以降同一イニングでは他の守備位置につく事はできない。

① 投手→野手→投手 — 公認野球規則 5.10(d)

【原注】適用

② 投手→野手→野手→投手 — 連盟規則

③ 投手→野手→野手 — 連盟規則

- 14. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
- 15. 監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)
- 16. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 17. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 18. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 19. 小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチスボックス内でベースコーチを務めてもよい。この場合、必ず両耳付ヘルメットを着用すること。
- 20. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具【マスク、捕用手ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファウルカップ(一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く)】2組を備えること。
- 21. ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等はパートナー企業のものに限る。
- 22. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 23. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
- 24. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
- 25. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
- 26. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

参考

野球規則 7.01 (4)

7.02 (a) によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイブレーク実施細則》

(1) 特別規則

- (イ) 中学生の部は7回あるいは試合開始から2時間を超えて、小学生の部は6回あるいは試合開始から1時間40分を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
 - (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
 - (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる
- (ニ) この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

- ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。